

平成27年度加茂川総合内水対策協議会 議事録

◆日時：平成27年10月21日（水）14:00～14:57

◆場所：美濃加茂市役所本庁舎3階第一議会委員会室

◆出席者：市）美濃加茂市長 藤井浩人

美濃加茂市総務部長 渡辺文喜、美濃加茂市建設水道部長 池田正幸

町）坂祝町長 南山宗之

坂祝町総務課長 吉田勇彦、坂祝町産業建設課長 小関 昇

国）木曾川上流河川事務所長 大澤健治、

木曾川上流河川事務所副所長 竹田達也

県）岐阜県県土整備部次長兼河川課長 三戸雅文

可茂土木事務所河川砂防課係長 高橋君治

民）（美濃加茂市）若宮一自治会長 林光夫、下町六自治会長 鈴木健一

深田一自治会長 兼松和雄

（坂祝町）酒倉連合自治会長 菅沼信幸

協議事項：対策の実施状況報告

国（木曾川上流河川事務所）県（可茂土木事務所）市（美濃加茂市都市計画課）町（坂祝町産業建設課）がそれぞれ実施している事業について説明した。

上記協議事項に対する内容について委員から次のような意見や質問が出た（発言順）。

【下町六自治会長 鈴木氏】

・岐阜県による対策の中の「加茂川の護岸工事」について、①ブロックをつけることでどのような効果があるのか、②草笛町付近の買収に係る工事はどのような内容か、以上2点についてご教示いただきたい。

【可茂土木事務所】

・①について、護岸の高さを上げることで、今までより多くの洪水を安全に流す効果が期待できる。②について、現況の堤防は、断面と高さが足りないため、堤防の嵩上げ工事を予定している。

【坂祝町長 南山氏】

・坂祝町において、水が入ってこないように門を作るとか、住宅の嵩上げを補助する条例を整備したが、実際に制度が活用されるには及んでいない。そこで、上流域の農地のうち、住宅ができてような土地で水があふれそうなところは、先に町で買収し、そこを調整池にするとか、建設中の21号バイパス（BP）については、調整池を多く建設し、BPに降った雨を受け止めて、加茂川への水量を調整できるようにと国道事務所に要望するなど、対策メニュー以外の取り組みもしている。

【酒倉連合自治会長 菅沼氏】

・木曾川の一色について、深く掘ることで、排水を促し、水位が上がらないようにすることはしないのか。

【坂祝町長 南山氏】

・この点について、以前、坂祝町自治会からも要望したことがあるが、工事費がかかるということで難しいが、将来的に全く考えないということではない、という回答をいただいた。対策として、総合内水対策計画のアクションプログラムの中にある「樹木伐開」で流量を増やすことを計画されている。

【木曾川上流河川事務所長 大澤氏】

・掘り下げではなく、「樹木伐開」の方が安価で流下能力が上がると考えている。整備計画以上の流量を流そうとした場合は、新たな検討が必要かもしれないが、念頭に置きながら対応していきたい

【美濃加茂市長 藤井氏】

・26年度は西中学校、27年度は山之上小学校の貯留浸透施設というハード面に着手をすることで、ソフト面についても意識の啓発になると考える。学校の子どもたちに、水害・災害対策について一緒に取り組んでいこうと話すことができた。今までは被災される地域住民の方だけの問題ととらわれがちであったが、広域で一緒になって考えることができる、一歩、二歩と進めている状況があると思う。

【酒倉連合自治会長 菅沼氏】

・消防署も周囲が水没する可能性があるので、行動範囲が抑制されてしまわないかと安全面での懸念がある。今の位置でいいのか、さらに高台に消防署を設置したほうが良いのではないかと考えてしまうがいかがか。

【美濃加茂市総務部長 渡辺氏】

・確かに現在地は、9.28災害から見ると常総市の災害と同じような状況になりかねないと危惧している。そういったことも含めて、公共施設の再配置は考えていかねばならないが、今の時点ですぐということは一歩、二歩と進んでいる。市庁舎も耐用年数も古いということもあり、建て替えを考えなければならない。これらが一緒になって計画できれば、そういうことも念頭に入れて検討したい。

【美濃加茂市建設水道部長 池田氏】

・加茂川内水対策の基本要綱として、平成23年と同レベルの水害が来ても、現在の消防署の位置は問題ない。しかし、それ以上の雨が降ったとき、あるいは、木曾川からの水位が上がってくると、平成23年水害時想定より多い水量となるので、そうなるとう十分とは言えない。しかし、経験した中で一番水位が上がった平成23年水害までの水量までなら大丈夫である。

【美濃加茂市総務部長 渡辺氏】

・災害時の基地となる市役所庁舎が災害対策本部となるが、もしここが水害にあった場合は、新

池町にある総合福祉会館が災害本部になるという計画である。

【酒倉連合自治会長 菅沼氏】

- ・坂祝町は、規模が小さいので、美濃加茂市の支援無しでは人命は救えないので、お願いしたい。

【美濃加茂市長 藤井氏】

- ・30年前の経験があるので、水害時の対策本部、可茂消防の動きというのは、計算した上で訓練等もやっている。ご心配されるように、もし道路なども水没すると、救助等の連携が対応できるのかという不安が住民の方々にあると思うので、そこは防災訓練であったり、日ごろの行政との意見交換で、不安を解消していけるように努めていきたい。